

●基礎情報						
対象区域	北海道小樽市					
代表者	西條 文雪			設立時期	1946年3月	
業務執行責任者（COO）	徳満 康浩	マーケティング責任者（CMO）	永岡 朋子	財務責任者（CFO）	徳満 康浩	
職員数	51 人（常勤）	42 人（正職員）	21 人・出向等	21 人）		
収入総額 【千円】	収入総額	466,437	収入内訳 【千円】	<安定財源>		<その他財源>
	うち、安定財源	378,186		特定財源	20,642	行政からの交付金・負担金等 85,667
	その他財源	88,251		受託事業	10,613	その他 2,584
	※安定財源率	81.1%		行政の交付金・負担金等	0	
				会費	10,363	
連携する主な事業者				DMOに対する寄付金	0	
				収益事業	336,568	
	小樽商工会議所、朝里川温泉組合、小樽水族館公社、中央バス観光開発、小樽滞在型国際スノーリゾート協議会、小樽観光振興公社、小樽物産協会、小樽市商店街振興組合連合会、歴史文化研究所、O B M、おたる祝津たなげ会、小樽市漁業協同組合、新おたる農業協同組合、小樽おもてなしボランティアの会、小樽観光ガイドクラブ、おたる案内ボランティアガイドの会、北海道鮭商生活衛生同業組合小樽支部、北海道社交飲食生活衛生同業組合小樽支部					
	< 宿泊事業者 >	小樽ホテル・旅館組合、小樽ホテルミーティング、朝里川温泉組合、小樽滞在型国際スノーリゾート協議会				
	< 交通事業者 >	北海道旅客鉄道(株)小樽駅、北海道中央バス(株)、新日本海フェリー(株)、小樽ハイヤー協会、小樽個人タクシー協同組合				

●KGI/KPI			
実績値		2024 年度	2025 年度
旅行消費額 【千円】	全体	109,780,000	113,391,000
	インバウンド	28,089,240	28,985,996
一人当たり旅行消費額 【円】	全体	13,840	0
	インバウンド	63,168	0
延べ宿泊者数 【千人】	全体	1,188	1,232
	インバウンド	37	37
来訪者満足度 【％】	全体	0.0	0.0
	インバウンド	0.0	0.0
住民満足度 【％】		－	57.4

●戦略			
マネジメント区域の状況	マネジメント区域の小樽市は、北海道西海岸のほぼ中央、後志地方の東側に位置し、札幌市など4 市町村に接している。東西約3 6 km、南北約2 0 kmで、市街地の一方が日本海に面し、他の三方を山々に囲まれた坂の多いまちとなっている。海岸線は約6 9 kmで、その中央には天然の良港である小樽港があり、西側の勇壮な海岸は「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」に指定されている。気候は北海道にあって寒暖の差が小さい海洋性であるため、住みやすく、春は桜と新緑、夏はゴルフやマリンレジャー、秋は紅葉、冬はスキーと、四季を通じて豊かな自然を満喫できる地域となっている。	観光地のビジョン （目指す姿）	長期滞在型の観光地を目指す
	市街地は、明治期以降の歴史を色濃く残す街並みが今も残り、年間8 0 0 万人を超える観光客が訪れる国内有数の観光都市となっているが、受入体制やおもてなし対応などの課題があり改善に向けた事業を展開している。また、日帰り客の割合が圧倒的に高く、滞在時間が短いことや観光スポットが固定化していることなどが課題として挙げられる。これらの課題を克服し、更なる発展を遂げるため、恵まれた観光資源を生かし、市民、観光事業者、観光関連団体、経済界、行政が一体となった観光振興の取組を推進している。	観光地域づくりのコンセプト	2026年度までの10年間を期間とする第2 次小樽市観光基本計画で目指す姿として示している 「ホンモノの小樽とふれあうー観光客と市民がふれあい、新しい発見があり、また来たいと思える街ー」
	当区域へのアクセスは、新千歳空港や札幌市から交通利便性が良く、2 0 3 8 年度末には北海道新幹線の札幌延伸、新小樽駅（仮称）の設置が予定されていることから、より一層交通利便性が向上される。 今後、小樽市が持続可能な観光都市としてさらに発展するためには、3 つの日本遺産を有し、明治以降の歴史的建造物などが多く残されていることの文化観光の推進のポテンシャルを持っていることは、近隣自治体にはない強みである。	主要なターゲット	<国内> 2 0 ～4 0 代女性

● 具体的な取組					
【データ分析・戦略策定に関する取組】	・WE Bサイトのアクセス、外国人宿泊客数、修学旅行宿泊客数、GPS人流データを用いた観光入込数など ・来訪者アンケート、小樽市観光客動態調査など		【プロモーションに関する取組】	・誘客・プロモーション事業～「Visit Japan トラベル & Mice マート2025（VJTM）」出展、スキープロモーション、ツーリズムEXPO ジャパン2025愛知・中部北陸、小樽港クルーズ・プロモーションにおける観光PR、国内プロモーション 朝活 & フェリー航路活用事業、教育旅行誘致事業 ・情報発信～観光ガイドマップ2025配布・2026製作、Webマガジン「小樽通」配信、音声合成キャラクター活用「小樽潮風高校Project」 など	 
【観光資源の磨き上げ、受入環境整備、着地整備に関する取組】	・磨き上げ～小樽築港エリア・新しいナイトタイムコンテンツ造成事業 Phase II ・受入環境～「小樽おもてなし認証」制度の推進運営、ナイトインフォメーション事業、北運河美化活動、「教えてください、小樽のちょっといい話」大募集、外国人観光客受入事業（外貨両替カード製作・「小樽おもてなし英会話」フレーズ集制作・飲食店対象外国人観光客対応のヒント 情報共有会）、バリアフリーミニ勉強会、夜の情報発信事業 ・着地整備～冬季閑散期対策事業（青の運河・ウィングラストワー・YOI-TARUプロジェクト・YOI-TARU味覚祭）、体験型コンテンツ造成事業 日本遺産認定「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」ガイド付きストーリーツアー造成・販売事業 など		【多様な関係者との体制構築・合意形成に関する取組】	・DMO形成連絡会議を令和7年7月22日に開催 ・小樽観光協会理事会を第4 木曜日を基本日程とし毎月開催したほか、総会を令和7年6月23日に開催 ・高校生向けおもてなし出前授業を令和8年1月29日・30日の2回実施	取組写真